

デیلیー・ジーザス・ニュース #151

第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教

3. 神殿におけるイエスの2番目の教え：「私は世の光である」

私。私は世の光です

ヨハネ8:12-20

12 イエスは再び群衆に話しかけて言われた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は決して暗闇の中を歩むことがなく、永遠の命の光を持つでしょう。」

13 パリサイ人たちはイエスにこう問いただした。「あなたは自分自身の証人として出廷したが、あなたの証言は無効だ。」

14 イエスは答えた。「たとえわたしが自分自身について証言するとしても、わたしの証言は有効です。なぜなら、わたしは自分がどこから来て、どこへ行くのかを知っているからです。しかし、あなた方はわたしがどこから来て、どこへ行くのかを知らないのです。」

15 「あなた方は人間の基準で裁きますが、私はだれも裁きません。 16 しかし、もし私が裁くなら、私の決定は真実です。なぜなら、私は一人ではないからです。私は、私を遣わした父と共にいるのです。 17 あなた方の律法には、二人の証人の証言は真実であると書いてある。 18 わたしは自分自身について証しをする者であり、わたしを遣わした父もわたしの証人です。」

19 そこで彼らはイエスに尋ねました。「あなたのお父さんはどこにいますか？」

「あなたは私をも私の父をも知らない」 イエスは答えました。「もしあなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたはずです。」

20 イエスは神殿の境内、供え物を置く場所の近くで教えながら、これらの言葉を話された。しかし、イエスの時がまだ来ていなかったで、だれも彼を捕らえなかった。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	9月 (31月)

デイリー・ジーザス・ニュース #151

イエスの生涯の文脈	第六段階：イエスの後期ユダヤ宣教
	B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教
	神殿でのイエスの2番目の教え：「私は世の光である」
タイトル	i. イエスは宣言する：「私は世の光である」

コメント：

今日の朗読では、イエスはヨハネによる福音書の中で、7回のうち2回目の「わたしは...」宣言をされました。「わたしは世の光である。」イエスの7つの「わたしは...」宣言は以下の通りです。

1. わたしは命のパンである（ヨハネ6章）
2. わたしは世の光です（ヨハネ8章）
3. わたしは門である（ヨハネ10章）
4. わたしは良い羊飼いです（ヨハネ10）
5. わたしは復活であり、命である（ヨハネ11章）
6. わたしは道であり、真理であり、命である（ヨハネ14）
7. わたしはまことのぶどうの木である（ヨハネ15）

「わたしは世の光である」という声明は、仮庵の祭りの中心であった光の祝典に直接基づいています。

ヨハネによる福音書第8章と第9章では、イエスが仮庵の祭りの「光」というテーマを言葉の背景イメージとして用いていることが描かれています。第8章でイエスご自身を「世の光」と示しました。第9章では、盲人の目の暗闇を「照らす」ことで、ご自身が世の光であることを証明しました。この2つの章は一体となって、仮庵の祭りが記念する「世の光」であるイエスを明らかにしています。

1世紀の人々は、一日の半分は深い闇に包まれた世界に住んでいました。暗闇の中に輝く光が差し込む現象は、一年のうち一週間、仮庵の祭りの時にのみ経験されました。この祭りの間、神殿の境内を照らす巨大なろうそくと無数のたいまつは、文字通りシオンの山頂から空を照らしました。それはあまりにも壮観で、目撃した者は誰も忘れることができないほどでした。

イエスが「わたしは世の光である」と言い、さらに、イエスを信じる者は誰も二度と闇の中を歩むことはないと言われたとき、イエスは神聖なる主張をなさったのです。これは、ヨハネが福音書の冒頭でイエスについて用いた最初の象徴です。 **「この方に永遠の命があった。この命は人々の光であった。」**ヨハネ1章4節

祭りの灯りは、荒野で40年間、神の光が夜通し幕屋を燃え盛る火として照らしていたことを思い起こさせるものでした。神の民がその間、暗闇を経験することはなかったように、イエスは、ご自分の民が霊的な暗闇

デイリー・ジーザス・ニュース #151

を経験することは決してないと主張しました。仮庵の祭りという文脈において、イエスは1世紀のユダヤ人にとって最も印象的で衝撃的な方法で、ご自身がヤハウエ（光の神）であることを宣言されたのです。

イエスは「光」を「永遠の命」の領域にあると限定して言われました。人生には説明のつかない謎が数多くありますが、イエスはそれをそのまま残されました。しかし、イエスは「永遠の命」の現実を私たちすべてにはっきりと明らかにするために来られたのです。

「永遠の命」とは、神独自の命の性質であり、自ら存在し、他の誰にも、何にも依存しないものです。さらに、神の「永遠の命」は、宇宙のあらゆる生命を生み出し、支えるほどの力を持っています。「永遠の命」には、神の愛と正義という道徳的性質が含まれます。イエスは、神の命の性質。のこれらすべての特徴を、その生、死、そして特に復活において示しました。だからこそ、イエスは5番目の「私は在る」宣言において「復活」と永遠の命を結びつけたのです。

イエスは、ご自身を信じるすべての人に永遠の命を約束されました。これはイエスの宣教活動における最も重要なテーマの一つでした。イエスは、ご自身の生涯のあらゆる側面において、この永遠の命を実証し、明らかにされました。イエスは三位一体の輝かしい啓示であり、イエスを信じるすべての人に永遠の命を与える神です。

応用：

イエスは神の啓示の光です。イエスは、神の赦し、永遠の命、愛、喜び、平和という賜物をすべての人に明らかに示しました。

今日はどのようにイエス様の光をあなたに照らしてもらいますか？